

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 伊勢崎市立宮郷中学校 】

1 実践テーマ	I・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	<p>全校生徒（男子374名 女子395名 計769名）</p> <p>第1学年（男子118名 女子127名 計245名）</p> <p>第2学年（男子141名 女子127名 計268名）</p> <p>第3学年（男子115名 女子141名 計256名）</p>
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育）</p> <p>② 行事名（体育大会）</p> <p>③ その他（寺内健選手へのメッセージ書き、掲示物の充実、給食時のDVD映像放送）</p> <p>※寺内健選手（東京オリンピック飛込競技日本代表選手）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<p>スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学びを通して、スポーツに対する興味・関心の向上やスポーツを楽しもうとする心の育成を図る。また、オリンピック・パラリンピック選手の生き方を通して、自分自身を振り返り、よりよい生き方をしようとする心の育成を図る。</p>
5 取組内容	<p>（1）保健体育の授業における実践</p> <p>各学年の体育理論の学習を中心に、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について扱い理解を深めた。</p> <p>（2）学校行事における実践</p> <p>昨年度に引き続き、体育大会の開会式において、生徒会の生徒がオリンピズムの5つのテーマのオーナメントを掲げ、全校生徒のオリンピック・パラリンピックに対する意識を高めた。</p> <p>また、体育大会部活動対抗リレーでは、春季・総体と活躍する舞台が無くなってしまった3年生に、例年よりも時間を確保し、アナウンスとともにポーズを決めさせアスリートの入場シーンを再現させることで、オリンピック・パラリンピックに対する興味関心を高めた。</p> <p>（3）その他の実践</p> <p>① 昨年度講演会に来ていただいた寺内健選手に向けて、</p>

生徒会本部役員と各部部長、希望者が国旗に激励のメッセージの寄せ書きや応援動画を作成し、応援する楽しさや喜び等の心情を育んだ。

- ② 校舎内の廊下に掲示物を作成し、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、アスリートの言葉や考え方、生き様などに触れた。
- ③ 給食時の新型コロナウイルス感染症防止策として会話ができない状況のため、アスリートに関わる映像を流して、トップアスリートならではの苦悩や考え方などに触れた。



(2) 体育大会開会式の様子



(2) 部活動対抗リレーの入場



(3)-②メッセージ作成の様子 1





(3)-②メッセージ作成の様子 2



(3)-②寺内選手へのメッセージ 完成



(3)-③オリンピック・パラリンピックの概要

		
<p>6 主な成果</p>	<p>(3)-③アスリートの紹介 (3)-③アスリートの言葉</p> <p>(1) 生徒による主体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新しい生活様式の中での体育大会を企画するにあたり、競技種目の見直しの際に、学級委員を中心とした学年委員会で学年種目の検討をしたり、生徒会本部役員や各部活動の部長に部活動対抗リレーの進め方を検討したりして、例年以上に生徒が「する」立場だけでなく、「支える」立場として関わることができた。 ② 昨年度講演会に来ていただいた寺内健選手が、オリンピック延期などの状況下でも前向きに努力を続けていることを激励するために、何ができるかと生徒会や各部の部長などがアイデアを出し合い、国旗への激励メッセージを作成することができた。 ③ 体育委員会で、オリンピック・パラリンピックのそれぞれの種目をチェックし、注目している種目とどのような競技なのかよく分からない種目を集計し、認知されていない競技にも注目してもらうように結果やスポーツ紹介の掲示物を作成し、様々なスポーツへの興味関心を高めることができた。 	
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) オリンピック選手との交流 昨年度実施した寺内健選手の講演会をきっかけに、コロナ禍の状況にもかかわらず、目標に向かい努力を続けている寺内選手に対し、激励のメッセージを作成し、交流を継続させた。</p> <p>(2) 全生徒に周知するための掲示コーナーの設置 今年度は、具体的に学校行事や推進校としての特別な行事として大きな取組ができなかったため、掲示コーナーを設置し、1年目の取組も含めて全生徒に推進校としての取組が継続しているということを周知させた。</p>	
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) 先を見通した計画を 今後も新しい生活様式に合わせた行動が大切とされるが、スポーツに対する興味関心を高めたりスポーツを楽しもうとする心を育んだりするため、取組を工夫していく必要がある。</p> <p>(2) より生徒の主体的な取組に 今回の推進校としての取組をきっかけに、興味を持ったり学んだりしたアスリートの考え方や人間性について、自らの生活の中で生かしていくとともに、学級活動や生徒会活動、</p>	

	部活動などの学校生活においても、主体的に物事に取り組む意欲や態度を育てていく必要がある。
9来年度以降の実施予定	昨年度の寺内健選手による講演会において、生徒に直接伝えて頂いた「目標設定の考え方」や「人間力」等についての話を、生徒自らの生活に生かしていけるように関連付けていきたい。今回の取組をきっかけにして、スポーツに興味・関心を持たせ、東京オリンピック・パラリンピックの閉幕後も、自分事として主体的に日常生活の中で実践につなげられるような生徒を育成するために今回の取組を応用させていきたい。